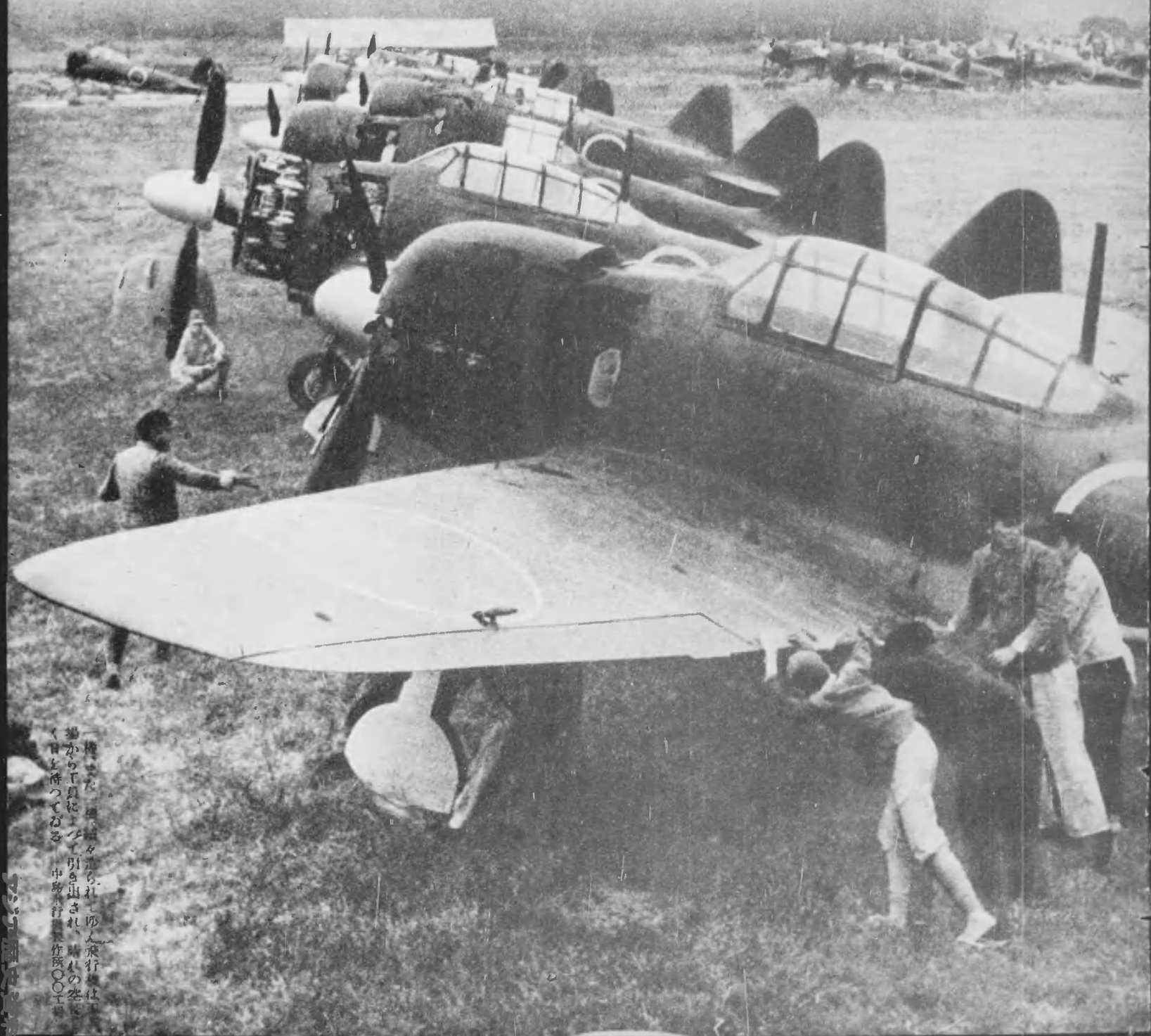
情報局編輯 十一月廿二日・第三四八號

寫眞週報

時の立札

今日
われらの造つた飛行機が
明日
戰場に神風を捲起すぞ
送り出せ
魂こめた飛行機を



一機出た　機銃々撃られ　砲人飛行機は　場から工具によつて引き出され、晴れの空へ　くまなく待つてゐる　中部第二飛行機製作所〇〇工場

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

比島沖海戦

⇨戰ひぬいて燃料を使ひ果した艦載機は、僚艦の目の前でザブと着水する。搭乗員救助に向ふカッター

わが艦載機に喰ひ下がちんとする敵グラマン機はわが正確な防禦砲火に火を噴く

⇦敵米艦隊に全砲門を開いたわが無敵戰艦

⇨見敵必殺の決意をこめて、空母の勇士は別れの盃を乾す

直視せよ！レイテ攻防

⇨比島〇〇基地に到着の山下最高指揮官　撮影　同盟通信社

レイテ島に揚陸作業中の皇軍勇士

敵は臺灣沖航空戰、比島沖海戰と、相次ぐ大損害にも拘はらず、その後もレイテ灣内外、比島沖東方海面に有力な機動部隊を出動せしめ、レイテ、サマール兩島に上陸した五箇師に上るマックアーサー上陸軍と呼應、レイテ全島の制壓を企圖して、あくまで比島奪回作戰を遂行せんとしてゐる。その旺盛頑強な戰意は決して輕視を許さない

比島方面に作戰の皇軍は、陸軍は山下奉文大將を最高指揮官に、富永恭次中將を航空部隊指揮官に、海軍は大川内傳七中將を最高指揮官に、福富繁、大西瀧治郎兩中將をそれ〴〵基地航空部隊指揮官に、陸海の精鋭をすぐつて着々戰果を擴大、正に驕敵撃滅の神機を捉へんとしてゐる

かくてこの方面の戰況は、分秒を刻む毎に苛烈の度を增し、文字通り血戰死鬪の連續である

レイテ島をめぐる戰鬪の歸趨が、比島決戰を左右し、さらには太平洋戰線の全般に決定的な影響を持つてくることは現在誰も疑ひをはさまない。小磯內閣總理大臣も去る八日、大詔奉戴日の放送の中で

『比島周邊における戰鬪の勝敗は天王山とも目すべき、彼我戰局の將來を左右すべき重大なる作戰といはねばならぬ』とその重大性を一億國民に明らかにされた

大東亞戰爭における比島作戰の重大性は今更いふまでもないところであり、わが本土より南西諸島を連ねて比島を結ぶ一線こそ、日本本土防衛の最後の要線であつてこの防衛線の運命は、とりもなほさず日本帝國興亡の運命に繋つてゐる。從つてわれわれは斷じて寸土といへどもこれを敵手に渡してはならぬ。この故にこそ敵は尨大なる物量の損耗と、人的資源の出血をも顧みず、遮二無二、比島奪還を敢行せんとしてゐるのである

レイテ方面の攻防戰は千載の一戰であり、斷じて勝たねばならぬ。しかも事態の緊迫は少しも樂觀を許さぬものであり、同じく小磯內閣總理大臣は

『今や彼我の勢力は伯仲してゐる。この勢力の均衡を破るものは、一人でも多くの兵員と、一機でも多くの飛行機を送ることである』と端的に訴へ、さらに

『**制空權さへ我が手にあらば敵の殲滅は期して待つべきである**』と絶叫されてゐる

互に鎬を削つてゐる前線の血鬪は、相次ぐわが神風特別攻撃隊の壯擧によつても、うかゝふことができる。前線では肇國以來、皇土に生を享けた全大和民族の憤激の血を沸らせて『奮生々々』と敵に躍りかゝつてゐる

續くのだ。すべてをなげうつて神風特別攻撃隊に、そして前線の將兵に續くのだいま、決戰である

⇦出撃の時至る。壓をかきり手をふつて基地將兵は見送る。この時、爆裝した飛行機は神と化して天翔けりゆく

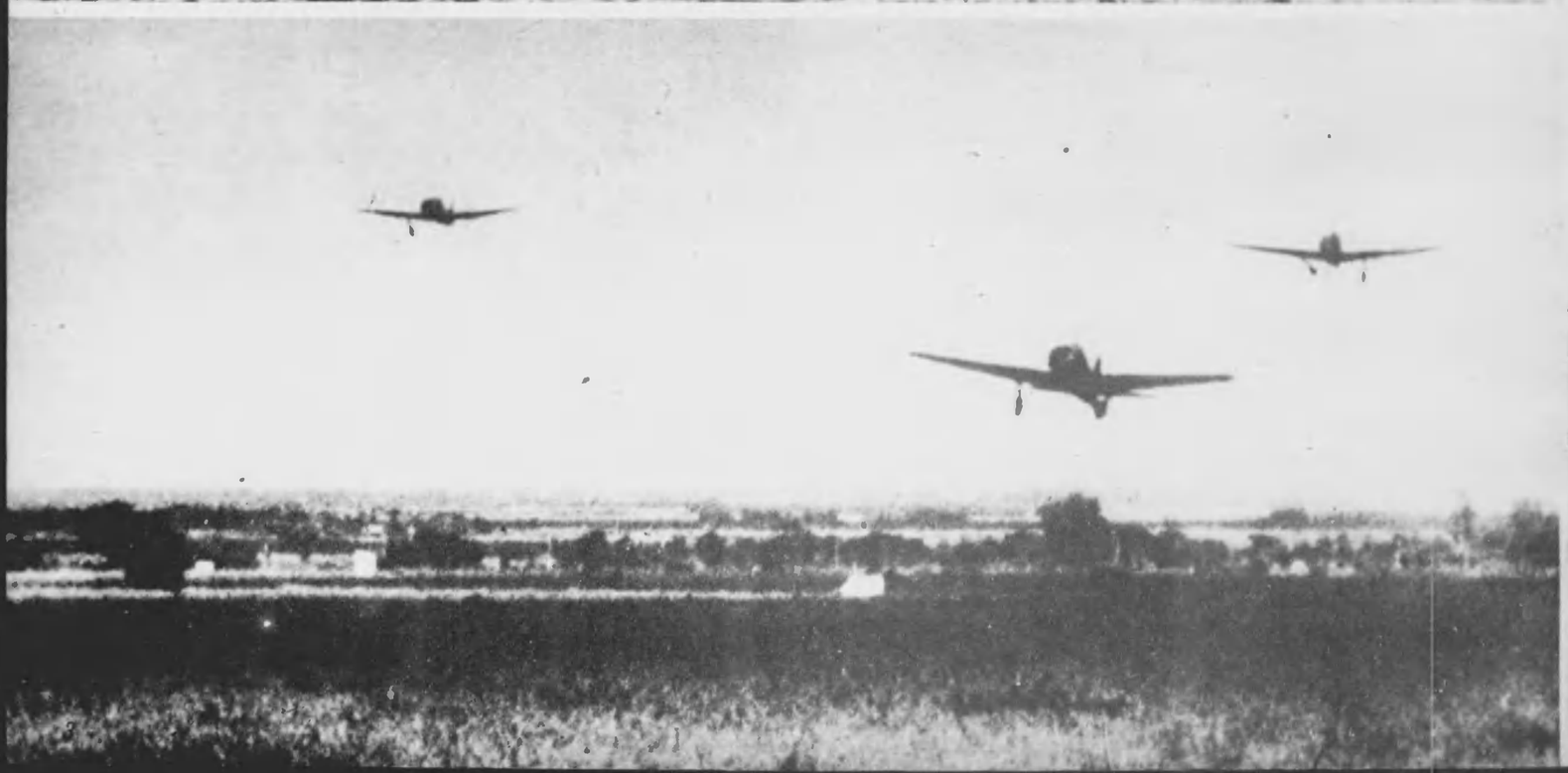
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

神風特別攻撃隊出撃

⇦ 敷島隊が出撃する時は来た。作友が歌かざり歌ふ『海ゆかば』と『君が代』の歌」とそ、後に続くぞと言ふ者の絶叫であつたらう

⇦ 出撃に當り、所属長官は隊大尉以下隊員と別盃を汲み交した。征くといふ者、征けといふ者、純一無雑、ひたすら悠久の大義に生くる將兵に贈け

⇦ 戦友よさらばと言葉でこそいはなくとも、戦友に別れていでたつ五勇士の胸底に、熱く燃える殉国の志が、送る將兵にいま燃え移る



⇦ 神鷲は征いて還らず。たゞ忠烈、燦として萬世に輝く

撮影　日本映画社

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

寫眞劇

戰時たいかんは出る

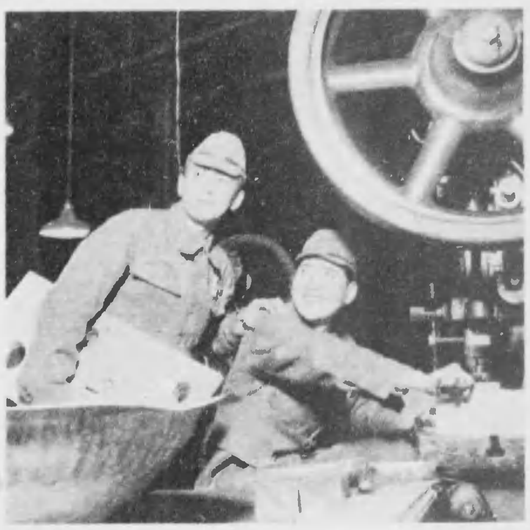
米英撃砕勤勞
激勵援護運動
期間 十一月二十七日 ～ 十二月三日

原作　菊田一夫
演出　五所平之助
映畫報國團協力

一　郵便屋さんは町から町をめぐつて、數びや悲しみをほろり込んでゆく……。この家――表札には、佐藤敬三と記してある。

二　この日……日曜日。配達された白い封書は、徵用の出頭命令書だつた。『あなた、白襷の御召しですのね、お芽出度う……』妻は、にこやかに言つた。併し、この家庭はどうなる。今迄の生活は。

三　一時は、暗い氣持になつたが、銓衡場で、合格の判定を下された時、それはガラリとくつがへつた。我も又、み民なり……。『お芽出度う……佐藤さん』さう言つて訪れて來た隣の一人娘みつ子、彼女もまた女子挺身隊として戰つてゐるのだ。



一五　そして、或る日……場内のラヂオの擴聲器が、突如軍艦マーチを奏でた。つゞいて分列行進曲を……。『おいッ戰果だッ』『苦勞の甲斐があつた……』ラヂオは叫ぶ、豪州沖の航空戰！その言葉の陰で、オレタチの作つた飛行機の爆音が聞える。

四　練成所に入所して半月……。訓練、訓練、そしてまた訓練。『しつかりやらう』さう言つて、鉢の手をしつかり握つたのは、同僚の横山だつた。

五　『君達は、少し焦りすぎとるよ、戰爭は長いのだ、まあ、ゆつくりやらうぢやないか』工場へ入つて一週間も經つといふのに、仕事はまだ何一つとして與へられなかつた。あれ程はりきつて來たのに……。そして、與へられたのが、この言葉だつた。『俺達は、遊ぶ爲になら、こんな處へ來はしない……』

六　その頃……。『覺悟はしてゐたのですけれどね……餘りに吹入がちがひすぎるので……』『おねい樣、我慢をすつて……ね、お願ひ……頑張つて……ね、お願ひ』戰線士の留守を護る妻として、雪枝は、健氣な願ひをつゞけて來たのだ。だが……。

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

呼稱す……

える。

ひ　頑張つて……ね、お願ひ」

應徴士の留守を護る妻として、雪枝は、健氣に戰ひをつゞけて來たのだ。だが……。

七　心のゆるむ隙間を洩れて、こんな囁きが聞えて來る。

『いゝぢやねえか……まあ一杯やれよ……馬鹿正直な奴ほど、損をするんだぜ。お前がやらなくつたつて、誰かがやつてくれらあな……』

……一二『サイパン島の在留邦人は終始軍に協力し凡そ戰ひ得るものは敢然戰鬪に參加し概ね將兵と運命を共にせるものの如し……

八　その歸途……。

ラヂオが叫ぶ、ラヂオが絶叫する。

「サイパン島全員戰死！」

誰が……誰が、さうさせたのだ。

寫眞週報

必死で働け　援護は萬全

九　泣きながら

『畜生ッ……畜生ッ……』

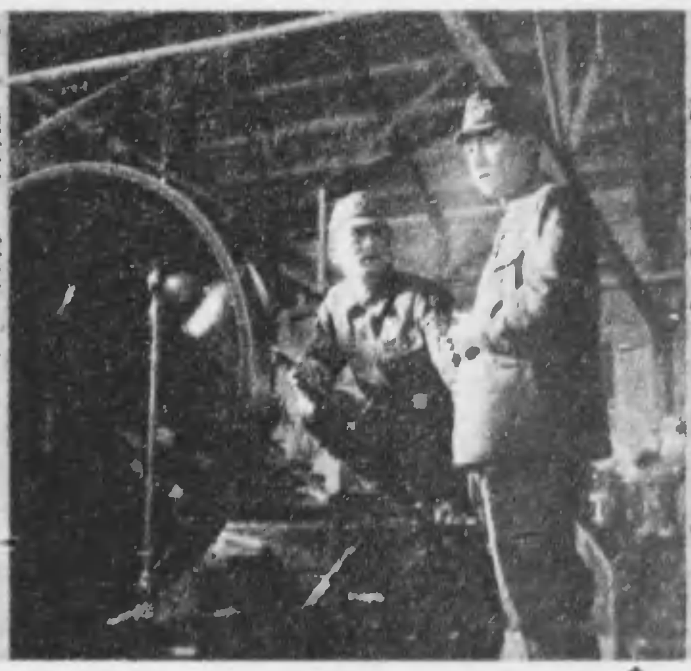
いや、泣いてゐる時ではない

必死になつて仕事に取組むことは又仕事に歡びを感ずる事だ

一〇　心が、正常さをとり戻した時、フト……。

『おい、どうしたのだ』

満身者の横山には、敬三の悩みが判らない。



一一　『雪枝……雪枝……』

呼んだが、返事がなかつた。

『おい、雪枝……』

敬三は、不安な叫びを上げた。

一二　だが、雪枝は、その日。

『ハンコを下さい、ハンコを……書留だからね……』

『まあ、國民勤勞援護會つて……』

『補給金だよ、きつと……應徴前の收入とひどくちがふ所へは、補給金といふもので、救ひの手つて奴をのばして呉れるんだ』

『郵便屋さん、どうしてそれを……』

『うちの悴も、徴用になつてるんでねハッハッハッ……有難いよねえ、全く……』

一三　『何時でも宜しかつたのに……御宅は特別な事情があるんだから……』

『でも、今月からは、決してお家賃ためませんわ』

『ほう、今夜は馬鹿に元氣ぢやありませんかハッハッハッ』

『ホッホッホッホッ……』

一四　それは、敬三にとつても、雪枝にとつても、意外な助け舟だつた。

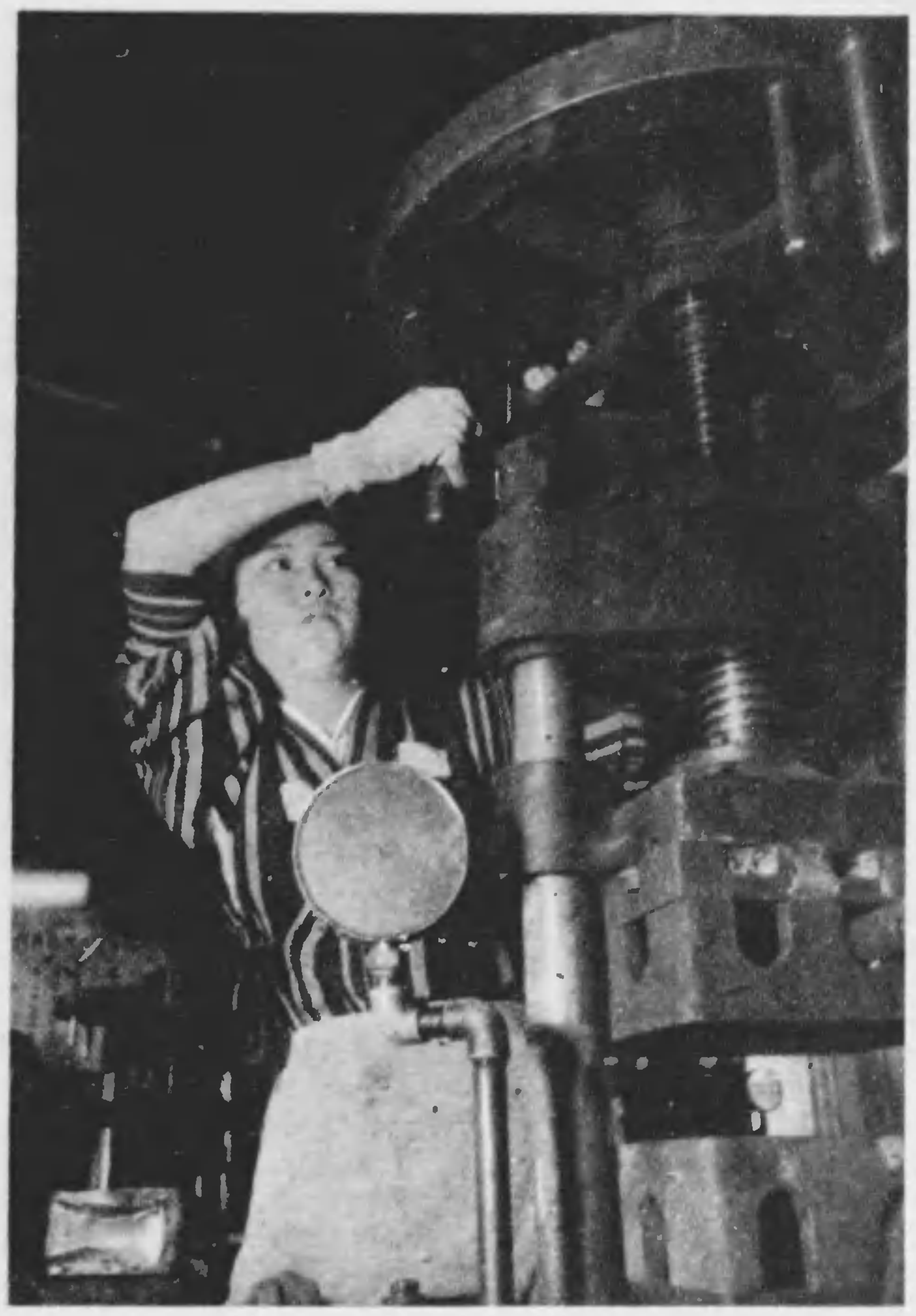
二階で寢てゐた敬一とまさ子を、無理やりに起こして

へくーにを出てからいく月ぞ……

『ほら、戰鬪機が飛ぶわよ』

若い夫婦の瞳は、いつかうるんでゐた。

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



⇧山本元帥の國葬、それから鄕土の軍神岩佐中佐の御教へに續かうと、朝夕遺影に額づいて御奉公を誓ふ

⇧最初は、作業が割合に清潔な仕上げが主だつたが、工場の人手が不足になるや彼女たちは敢然油と汗の中に飛込んでいつた

青年社長小林源助氏を中心に、彼女たちが仕事にうちこむ精進の團結は固い。今日は仕事の餘暇、社の戰時農園で樂しい甘藷掘り⇩

決戰の生産に返り咲く

高崎市 朝日化學工業工場

愛國の花として軍需工場に咲き、男に優る働きをつゞけて來た女子も、晴れの白襷をうける日が來た。女子を徴用するといつても今度の措置は、現在男子が徴用されてゐる工場で働いてゐる女子を徴用する、いはゆる現員徴用にとゞまり、同じ工場でも女子挺身隊には及ばない。またこれと同時に、後一ケ月ほどで一年の出動期間の終る挺身隊は、さらに一年間職場に踏みとゞまつて、熟練した緻手をふるふほか、官廳や統制會、會社に勤めてゐる女子も職場毎に挺身隊を組織して、増産戰線へ突撃することとなつた

正に文字通り『男は戰場へ、女は職場へ』のこの秋、――こゝ高崎市の朝日化學工業工場に敢鬪してゐる一團の女性がある。汗と油にまみれた彼女らに、誰が三絃を手にした前身を感じようか。國を思ふ一筋に、本年三月の決戰措置に進んで工場に志願した彼女らは、いま誇らかに肩を張り追撃増産にまつしぐらだ

⇧遊休設備となつた見番は、早速同社の化工部と看板を塗りかへした。●殆んど無斷缺勤、無缺勤で活動する彼女たちの頑張りには係りの者がかへつて驚かされた⇩

電波兵器に最も大切な眞空管の部分品を造る仕事 彼女たちは、或ひは失はれてゐた生甲斐をとりもどしたともいつてゐる⇩

家庭軍事講座

銃劍術の基本

第一圖（右）正面の姿勢（左）側面の姿勢

敵機はすでに幾度かわが本土を侵し來つた今とそ老いも若きもない。國民の一人々々の肩に神州護持の大任がかゝつてゐるのである。練武藝のこの秋に處するため、誰もが知つておくべき軍事知識を分りやすく解說した

『家庭軍事講座』を臨時掲載することとし、第一回として白兵戰の華ともいふべき『銃劍術』を帝國在鄉軍人會本部第一企畫部渡邊徹大佐に解說をお願ひした

銃劍術が皇軍で行はれるやうになつたのは、明治十年頃から後であるが、精神、技術共に純日本的のものとなつたのは明治二十七年前後である

爾來、皇軍の銃劍突擊は世界的に有名となり、皇軍を敵とするものはいづれもその威力に恐れをなしてゐるのであつて、大東亞戰爭においても、敵が如何にこの肉彈突擊を恐れてゐるかは、皆さんが毎日の放送や新聞でよく知られてゐる通りである。例へどんなに火器が發達しても、また、どんなに飛行機が進歩したとしても、最後の止めを刺すのは、やはり銃劍突擊であることは變りない

銃劍術は改めていふまでもなく、まづ技術に習熟し、特に剛健なる氣力と膽力を養成して、白兵戰闘における必勝の確信を得るものであるが、それと同時に武德を涵養し士風を振起するのである。さらに銃劍術は一般國民の武道として廣く行はるべきものであるが、滿十七歲から四十五歲までの男子の殆んど全部が在鄉軍人である決戰の今日、さらに普及せられつゝあることは誠に悅ばしい次第である。しかしまだ銃劍術について、その原則を知らない人もあるやうに思はれるので、どく簡單に銃劍術を手ほどきすることにしよう。もちろん實際に指導を受けなければ、神髓には觸れたとはいへないが、紙上で分りやすく實際の參考となるやうなことを解說する

一、立 銃（不動の姿勢）

本銃を持つての（竹槍を持つた時でも同じ）不動の姿勢は、第一圖のやうに銃不動の姿勢と同じである

二、構へ銃

第一圖

第二圖

第一圖—正面を向き眼は敵の眼に注いだまゝ右足先—で半ば右に向きながら左足—を約半歩前に踏み出し、その足先を概ね正面に向ける（第二圖）

第二圖—體重を兩足にひとしくかけて足先に近い部で支へる

約十五度

同時に右手で銃を擧げながら、僅かに左に傾けて前に倒し（第三圖）

第三圖 構へ銃第一動

左手で握れ下部の下部を本體の上から握る—次きに右手で銃把を右上方から握り右拳—を顎骨の附近におき左肘—を僅かに開げ銃尖—を敵の眼に向ける（第四圖）

第四圖 構へ銃第二動

第五圖 正しい兩手の握り方

これをさらに詳しくいふと

第六圖

三、構へ銃より立銃

構へ銃と反對の順序で、右足を左足に引きつけて立銃の姿勢にかへる

第七圖 正しく安定したところ

四、前へと後へ

これは敵との間合をつめたり、あけたりするために、僅かに前進したり後退したりする動作であるが、直前直後ばかりでなく、習熟するに從つて斜めに前へ出たり、後へ退いたりすることも練古する必要がある

前へは右足の脛骨部（ハ）で鋭く踏み切り、體の重心點、つまり下腹部を前方に送り出すと同時に左足を約一足長（つまさきから踵までの長さ）前に進め、直ちに右足を定跡線（構へ銃のときの兩足の輕に移す。この時、兩足は地に近く進つて足先から地につけ、足先の方向が變らないやうに、兩膝を發條のやうに使ふ。上體は眼直くにしたまゝで、下腹部に力を入れて腰から出るのである

後へ退くときは、前への反對の動作をすればよい。つまり左足の脛骨部で鋭く踏み切り、右足を退け左足を定跡線に移す

五、直 突

直突は使銃の基礎となる最も大切な動作であるから十分に習得せねばならぬ。極端にいへば、これさへ練古すれば、銃劍術の要領の大部分は會得できるともいへるほどである。練古の仕方は

1 脚の動作

イ、右足の踏み切り方は『前へ』のときとほゞ同じであるが、たゞ鋭く短く踏み切ること、十分に前に出ることと左足は平に地につけることとが異ふ

ロ、體重の大部が左足にかゝるから自然に左膝が僅かに屈がるが、上體は依然眼直くに保持してゐなければならない（第八圖）

ハ、刺突後は直ちに構へ銃の姿勢に復する

第八圖 進出した時の兩足の姿勢

2 臂の動作

これは進出せず、銃の位置で臂だけの動作、つまり兩拳の作用、兩手の握り締め方、本銃の輕過路など各種習得する

イ、左手は軽く握つたまゝで、主として右手で銃を突き出す

突き出した時、左臂が十分に伸びた瞬時に左肩胸を僅かに內側に旋回するやうにして兩手を握り締める（構へてゐる時、僅かに左に傾いてゐるから突いたときに內旋するやうにすれば銃は眼直くになる）突き出した時の左拳は胸の高さに、右拳は概ね左乳の前下方に位置し、銃を水平にして劍尖を刺突部に向ける（第九圖）

ロ、さらに力を入れかへて銃を引き拔き、構へ銃の姿勢に復する

第九圖 臂の動作と突いた時の姿勢

3 臂、脚、體一致の動作

これらのすでに修得した脚の動作と臂の動作とを綜合して、今度は前へ踏み出ながら直突を行ふ

この時に初めから踏り大きく進出すると、體の姿勢が崩れたり臂の動作が正しくならないから、最初は進出量を少くして、臂、脚、體一致の動作が正しくできるやうに練古して、慣れるにつれて進出量をふやすやうにするとよい

4 劍の交叉

習技者に間合の標準を教へるために行ふが、第七圖のやうに交叉は劍尖から約十センチのところとし、木銃の右側で交叉するのが正しく、劍尖は前に進べたやうに概ね敵眼に向ける

第十圖 教官に對して行ふその場刺突

5 教官に對して行ふ直突

最初は、空間で練習した要領で鋭く力を入れて刺突するが（第十圖）

兩方劍合をかけて、しかも刺突力を強める（第十一圖）

第十一圖 氣勢充實した直突

六、假標刺突

まづ、その場で突く（第十二圖）

イ、體重を左脚にだけかけないこと

ロ、下腹部に力を入れること

ハ、押し突きしないこと

ニ、手先きだけで刺突しないこと

第十二圖 その場で行ふ刺突

第十三圖 引き拔きの動作

ホ、眼直くに突くこと

1 僅かに進いて引き拔く（第十三圖）

以下同じ）

イ、迅速確實に引き拔くこと

ロ、次きの假標に對して準備を確實にすること

2 一歩前進して行ふ刺突（第十四圖）

イ、踏切りを強くすること

ロ、腰を引かないこと

ハ、その他は前記と同じ

第十四圖 一歩前進しての刺突

3 普步前進しての刺突（第十五圖）

イ、步法に活氣あること

ロ、劍尖を僅かに低くすること

ハ、踏切りを誤らぬこと

第十五圖 普步前進して刺突するところ

4 十メートル先から突入して行ふ刺突

（概ね第十五圖と同じ）

5 二十メートル先から突入して行ふ刺突（第十六圖）

イ、發進するときに氣勢が充實してゐること

ロ、銃を構へる時間が遲れないこと

ハ、威嚇をあげて猛烈果敢に突入すること

木銃では突き刺さらないから、眞銃か竹槍でもやつてみなければ分らぬ

第十六圖 二十メートル先から發進するところ

以上のやうに、銃劍術もそれ〴〵あるが、これらの基礎となるものは直突である。從つてまづ直突を十分に修得することが一番大切である

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

寫眞週報
（禁無斷轉載）
昭和十二年一月十一日第一種郵便物認可
昭和十九年十一月廿二日發行
毎週一回水曜日發行
定價一部 十錢（送料一錢）
編輯者 情報局
東京都麹町區永田町一丁目
印刷者 東京都麹町區大手町
發行者 印刷局
申込所 全國各地官報週報書籍及部 書店、驛賣店、新聞販賣店
海軍關係の複寫複製は海軍省承認濟第五二四一號です

或る奇術

非常に大きな工場の重役が、顔色をかへて小さな工場へ駆け込んできた

『おい君、何とかしてくれ。8號の變壓器が二千箇あと一週間後に要るのだ。これが揃はなければ、おれは切腹だ。何とか頼む』と、小工場主を拝まんばかりだ

兩工場は、ついこの間から多少關係が出來たぐらゐの縁のこととて、因縁だけなら拝まれても動く筋合ではなかつたが、時局下のこととて、知らぬ顔も出來ない。そこで小工場主は自分の工場の事情を考慮した上で、かういつた

『8號なら、線の方は持合せがあるが、鐵芯にする8號特殊鋼板の持合せがない。この鋼板をまはしてくれるなら、やつてあげよう』

すると大工場の重役は首を振つて

『いや、だめだ。その鋼板は使ひ切つてないのだ。だから、うちの工場でもどうにもならないのだ。材料の方は全部そつちで心配してくれ』

『困つたなあ』

『おれは切腹しなければならん。それにこの時局だ。作戦に間に合はなくては……』

『よろしい、では引受けませう』

大工場の重役が喜んだことはいふまでもない

果して一週間後に、二千箇の8號變壓器は大工場へ納まつた。そして重役は腹を切らずにすんだ

後で、その重役は小工場主にいつた

『君は意地悪だよ。鐵芯の鋼板を持つてゐる癖に持つてゐないなどといつたね』

『いや、あのときは確かに一枚もなかつたのだ』

『信じないね。ぢやあその後どこから手に入れたのかね』

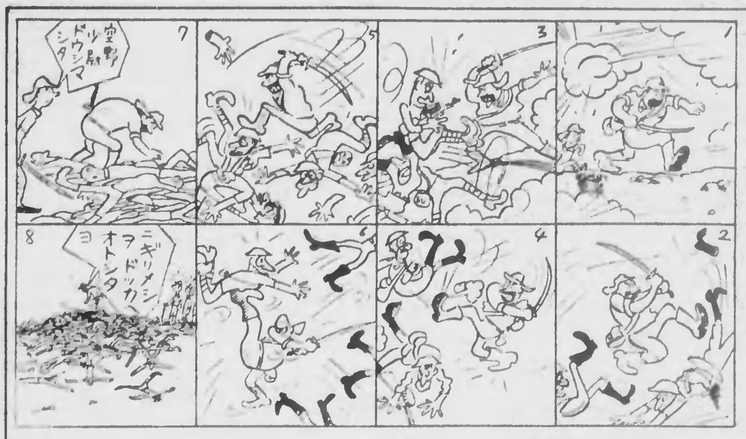
『君らとの工場からさ』

『僕のところから……。そんな莫迦な……』

『本當なのさ。受取證を見せよう』

といつて小工場主が出して見せたのは、屑鐵買受證だつた。それによると、大工場の拂下げた屑鐵板から、こんど納品した鐵芯鋼板を切り出したのであつた。大工場では、一枚の鋼板から型打ち出しで五十五パーセントを利用し、のこりを屑鐵として拾てゐたのだ。小工場ではそれを買つて、その九十パーセントを利用して變壓器に作りあげ、元の大工場へ納めたのだ。資材難！ 本當だらうか？

漫畫 吹戰見第 横山隆一



手榴彈

⇦ 向きが變つた行列　森熊　猛

煙草屋に並んだ同じ顔が、反對側の郵便局へ貯金行列をするやうになりました

⇦ ものはやりやう　小泉　紫朗

用水を汲みかへながら溝の掃除とはいかがでナ

わかつた！ でゐだ！

婦さんの刑事、工夫、知識を動員してこの陸路を打開して下さい

【問題】『お母さま、また電球が切れちやつたわ、今度はお廊下のよ』と光子さんは困つたやうにいひました。そこへお兄さまがお勤め先から帰つて來たらしく、玄關の壁スイッチをパチン〜〜やつてゐる音が聞えたので、光子さんは大聲に『だめよ、それ切れてるのよ』と申しました『何いつてるんだ、ちゃんとついてるよ』とお兄さまは笑つてゐます。みると廊下には電燈が明るくついてゐました。答は次號）

前々號解答　火消壺の中にある空氣の量は僅かなものでいくらも炭を燃す力はありません。ですから火消壺の大小は炭の損失にあまり影響がありません。それから水をかけて消すことは元のやうに乾かすのに時間がかゝります。もし湿つたまゝ使ひますと、燃えが悪いばかりでなく熱量の點でも損です。また焜爐のまゝ消すのは餘熱の利用にはなりますが、よほどびつたり空氣を遮斷しないと、なかなか火が消えません

學藝の問出　小泉　貞雄

『兄ちやん、敵艦全部沈めちやいやだよ。僕が大きくなつてから、やつつけるのを一緒だけ殘しといてね』

⇨ 冬の備へは大丈夫

蕾開させた子供たちがこの冬を元氣に過せばよいが――と、子を思ふ親心はみんな一つに寒さを案じてゐませう。今年三月、疎開にとさされてゐたこゝ長野縣淺間山麓の道分寮に集團疎開して來た四歳の幼兒から國民學校の五年生までの三十名のヨイコたちは、早くも訪れた高原の冬にもとんだに元氣一杯です。といふのは防寒衣類も揃ひましたし、部屋には煖炉もできてゐるので、さあ吹雪でも、大雪でも來いとばかり張切つてゐますから、ご安心下さい

⇨ 大きな煖炉を囲んで仲よく御話をさ、入ります

⇨ やゝ温める薪も木枯らしの中にみんなで探つて來たものです

野戰軍樂隊創設の委囑をうけた岡田少尉は、上野の聲樂科出身の音楽等と未經驗組の佐久間上等兵を一緒にしたが、二人は性格の相違も手傳ひ、なかなか練習がしつくりゆかない。しかし管の誠心に感動した佐久間は、練習に精出すことを誓ひ、かくて奮闘も無事終了、軍樂隊は前線に出動した。彈丸雨飛のなかを對重慶軍放送中、一彈は、遂に佐久間を傷つけたが、今は軍樂隊魂を身につけた彼は、ひるまず、トランペットを吹き續けた

この映畫は、野戰軍樂隊といふ特異な素材に取材し、皇軍の敢闘精神を非常によく表はしたもので、國民の士氣昂揚のためにも、ぜひ一見をおすゝめしたい

松竹作品

⇨ 街の稻刈戰景

和歌山縣田邊市は、特異な丁字街路の城下街だが、街の濠といふ濠には稻が植ゑられて、もうこんなに實りました。町の隣組や學童の世話で、どれも食糧生産增强の一役を立派に果しました。一畝で最高五升、最低五合、普通二升くらゐの收穫があげられ、それが殆んど糯米で、市内全部では五俵をトらぬといふから大したものです

本誌を皇新聞や掲示板に回覽や前線慰問にも

本誌を讀まれた後は隣組や職場で回覽するばかりでなく、表紙や見開きの寫眞を、職場や校庭の掲示板などで「壁寫眞新聞」として是非活用して下さい。戰時版の組ひもこゝにあります。また前線慰問にも送つてあげて下さい